

## 開学20周年記念特集号に寄せて

不破 英次

### Foreword of the Special Issue for the 20th Anniversary of the University

Hidetsugu FUWA

福山大学は、昭和50年開設以来早くも20年が経過しました。これを記念して平成7年には様々な記念行事が計画されています。すなわち、8月初旬には今春完成しました大学会館の「こけら落とし」をかねて20周年の記念式典が開催されますほか、福山大学20年史も刊行されることになっております。これらと関連して福山大学工学部紀要も20周年記念号を発刊する運びとなりました。工学部紀要は、昭和54年に創刊号を発行して以来、平成2年までは毎年1冊、平成3年からは年2冊の発行となり、その間、本学部の各専門分野（学科）に属する教職員の研究の成果を掲載し、学部内・学部間での教職員・学生の相互理解と、また広く社会にその成果を披露する役割を果たしてまいりました。この度、第19号が20周年記念号として発刊されることとなりましたことは、誠に同慶のいたりであります。

さて、福山大学10年史の工学部の内容と歴史の項に「科学技術の発達、人類に限りない恵みを与えているが、半面、それによって人間性の喪失が付随しがちである。本来、人間の幸せをつくるべき科学技術を十分に駆使するとともに、人間性の回復を図ることを理念とする、調和のとれた技術者を世に送り出したい。そこに私たちの合理性とロマンがある」と記されています。確かに、二十世紀は科学と技術の時代と言われており、人類はその恩恵を受けて、豊かな生活を実現できました。しかし、その反面マイナスの面も多々見られます。すなわち、私たちは現在エネルギー問題、食糧問題、人口問題、環境問題などなど多くの課題に直面しています。これらを解決していくためにも科学と技術の使命はますます大きくなっています。本学部はこうした状況を視野に入れ、人間尊重の理念に基づき、世界の平和と人類の幸福への真の貢献を目指した教育・研究を展開しています。このため、知的逞しさと豊かな人間性の調和のとれた、二十一世紀を担う各専門分野の技術者・研究者・教育者を育成して社会に送り出すことを目指すとともに、二十一世紀に役に立つ新しい科学と技術の創造に努力しております。幸い、本20周年記念号は本学部の各専門分野（学科）に関連する学

術的・技術的事項を“特別寄稿”として掲載するという企画の下に発行されることとなりました。本号が関連各分野の教職員・学生は言うまでもなく、多くの研究者・教育者、さらには広く社会の関心をもたれる方々のお役に立ち、また加えて、二十一世紀の各専門分野の指針の一つとなることができれば、これにまさる喜びはございません。

最後になりましたが、工学部紀要をここまで育て上げられました歴代の工学部紀要編集委員会の委員の皆様方のご努力に対し感謝の意を表したいと思います。特に、本号の企画・発行に絶大のご努力を払われました委員会前委員長の飯田義直教授ならびに委員長の吉田恭信教授に心からのお礼を申し上げます。